

名曲探訪 tr.008 “kengo matsui”

<Artist> Gretchen Parlato

<Title> Butterfly

<YouTube> https://www.youtube.com/watch?v=01YQ_YMXtoU

名曲の構造を愛でて楽しむ名曲探訪、今回はグレッチェン・パラートの”Butterfly”(2009年)を訪ねます。

この連載でも、13年からはリズムの話にフォーカスを当ててきましたが、ロバート・グラスパー・エクスペリメントの<BLACK RADIO>のヒットの頃から、音楽の探求は「リズム」が前景化しています。調性の探求は20世紀音楽を発展させましたが、開拓され尽くした感もあり、21世紀初頭の音楽にとってのフロンティアはリズムのようです。

<BLACK RADIO>的な現代ジャズのリズムは、大雑把にいうとジャズがヒップホップのような打ち込みのブラック・ミュージックのリズム感・音色感を持ちこんだものと言われ、具体的にはタムをなくし数種のスネアで叩くドラム、サンプラーのような音の質感などがありますが、奏法の面ではJ Dillaのようによれたりつかかかるとなるようなグルーブの伸縮や、ポリリズム性が特徴です。構造で考えると、1拍や1小節という単位時間を3で割ったり、4で割ったり、5で割ったり、という分割を自由に行き来し並走していると考えられます。

YoutubeでChris Daveのライブ映像がたくさんありますのでご覧になってください。よれたり、つかかかたりするようなドラミングを随所に織り込んだグルーブは見応えがあります。'14年の来日時にライブに行きましたが、飽きることなく見入ってしまうようなドラムでした。現代ジャズには中心的なドラマーが何名かいるのですが、Chris Daveがもっともヒップホップ的なのでcollectiveの皆さんにもおすすめです。

一方で同時多発的に、<BLACK RADIO>と別系の、リズム構造を堆積させる方向性もあります。例えば1小節ごとに4拍子と5拍子が繰り返すような交互拍子構造で、「1拍や1小節を割る」のではなく、「異なる拍子を積み重ねる」ような作りです。

”Butterfly”はハービー・ハンコックの'74年の楽曲で、元は4/4拍子ですが、グレッチェン・パラートは上記のようなリズムの分割と堆積の両面からのアイデアを融合させた秀逸なアレンジに仕上げています。イントロの鼻歌のようなボイスパーカッションからちよつとリズムがとりにくいなと一瞬思いますが普通に体を揺らすことができますと思います。ここは6拍+8拍でループする交互拍子になっています。その上にハンドクラップが乗っていますが、ハンドクラップがボーカルの6+8のリズムに対してアフロ的なクロスリズムになっていてポリリズム構造です。1回の周期が9拍(ボーカル6部分ではハンドクラップは4、ボーカル8部分では5)を叩いているようです。そしてテーマ部を抜けると8拍周期のみになり、またテーマで6+8に戻ります。映像で見ると、本人が手を叩きながら歌っており、2つの異なるリズムを見事に表現しています。

文章で書くとプログレのように難解ですが、この曲はオシャレで都会的なジャズに仕上がっています。テクニカルなレベルの高さとクリエイティブなアイデアを表現しながらも、技術のひけらかしのような面は一切なく、あくまでもムーディで心地良く聴ける一曲です。

旧本探訪 “itaru wakui”

泉麻人・いとうせいこう『コンビニエンス物語』
(新潮文庫、1992年)

この本は、コンビニエンスストアで見つけた商品をふたりが順番に紹介するというコラムで、1987年末から1989年末まで『TV BROS.』に連載されたものだという。パプルのころである。

しかしコンビニはいまほどには店舗数を増やしていなかったであろう。でなければこんな連載あり得ない。コンビニをおもしろがることなんていまどき誰もしない。

出店地域によってはお店ごとに重点商品が違うかもしれないけれど、コンビニに置いてある商品をピックアップして紹介する企画、いまでは通らないだろう。だからいま読むとおもしろい、かもしれない。

本書の一番のポイントはなんといってもコンビニエンスストアの通称についてだ。連載当初は「コンビニエンスストア」と略されずに使われているのだが、それが「コンビニ」になり、それからさらなる略記が使われるようになる。

しかし、である。その略記は「コンビニ」ではなく「コンビ」なのだ。すごい違和感。終盤には「コンビニ」に落ち着くものの過渡期には「コンビ」なる呼び名があった。

いまでは「コンビニ」以外の呼び名など想像もつかないが、かつては別の呼びかたがあったという事実を知った。このことだけでこの本には価値があるように思う。歴史の記録として。



information

あけましておめでとうございます。今回は初めてオーガナイザーのkengo matsuiがお休みとなりました。その穴を埋めるべく2人のゲストDJを招きました。長崎を中心にパーティーをオーガナイズするEDAVISH、京都の老舗レコードショップ bootsy's record店長の平野さんのプレイにご注目ください。

次回コレクティブは春の開催を予定しています。
詳細はブログでご確認下さい。
<http://blog-collective.blogspot.jp/>

press collective

DJと好きなレコードの話 (remix version) “平野孝則” (Bootsy's Records 店主/レコード収集家/DJ)

DJとは元の音源を歪め、解剖し、内に潜む本質や本来含有されていないものまで導き出し、独自の想像力を通して新たに整合感を与え構築することである。これらはそうした行為に多大な示唆を与えてくれる音の迷宮だ。

..Miles Davis『Bitches Brew』:幻想の熱帯に蠢く最新型アフロ・ファンク、ブードゥーによって甦生した最古のミシシッピ・ブルース。煌めく流星は深い闇に溶け入り、歪んだ反射鏡に金属片が飛び散る。..ミクスチャーの最高の手本だ。歌物では..Marvin Gaye『What's Going On』:幾重もの異なる表情を持つ楽器の如き声が導く、ソウル、ジャズ、ゴスペルでもあるブルージューな音像が、豊潤なオーケストレーションに物語を描く。..表現者にはピュアな精神性も必要だ。..Moondog『And His Friends』:ダンサーの爪先やネイティブ・インディアンのリズムに学び、東洋やカリブの旋律や自然界の音をミニマルに構築する盲目街角音楽家の、宇宙と交信する魔法のポリフォニー。

DJ用音源はツールとしての機能が第一だが、重層的構造があるほどにイメージは深みを巡る。..Moodymann『Black Mahogany』:歓楽性と破壊衝動がせめぎ合うシカゴ・ハウス流儀を踏まえた、過度にデフォルメされた重いビートと妖艶なヴォイスは、今を生きるストリートと強固な連帯を持つと同時に、黒人共同体に根差すジャズやソウルの伝統にも最大限の敬意を捧ぐ。..Theo Parrish『First Floor』:知的な構築のミニマリズムに黒人音楽特有の前衛的な逸脱性が異質なベクトルを与え、スピリチュアルなジャズ感覚と幻想的で不穏な旋律が瞑想の中を浮遊する。

群れるのは大嫌いだ、DJも孤独で異端の思想はある方が面白い。..Throbbing Gristle『20 Jazz Funk Greats』:骨格が溶解したファンク、ドナ・サマーが幻に舞うテクノ・ポップ、毒素を含む不穏な騒音、哀愁60年代オマーージュ。既成概念を否定するパンク精神が切実な希求をもって噴出する。..Arthur Russell『Calling Out Of Context』:マシーン・ビートに絡む饒舌な歌い口から言葉は断片となってこぼれ落ち、儂気な残像は青白い炎を冷ややかに燃やす。変幻自在の実験精神と瑞々しい感性が生み出す、水の流れを連想させる自然な反復と透明な音響。

ダブはDJの幾多の場面で効力を発する。..Agustus Pablo『King Tubby Meets Rockers Uptown』:デレイやリヴァーブによるポリリズムと時間の錯乱、メタリックな音響の暴力的刺激、露な骨組みが強靱なリズムを浮かび上がらせる。..同じように、土着と前衛の邂逅は実に刺激的だ。..Egberto Gismonte『Arvore』:映像を喚起させる木管と弦楽器、華麗に舞うピアノ、神秘的波動を促すヴォイスが幽玄の地で火花を散らす。ヨーロッパ的手法に融合する北東部やインディオの土俗的生命力が美しい。..というところで、字数は尽きた。続きはまたいつか..。

リサイクルショップについて “EDAISHI”

最近僕はよくリサイクルショップに行く。有名店からローカルなお店まで、行ったことのない街にもリサイクルショップを目指して訪れる。

きっかけは長崎で仲間と不定期に開催しているRAMBLEというパーティー。このパーティーでイベントTシャツを作るにあたって、無地のTシャツではなく既製のプリントの上からパーティーロゴを刷ってはどうかと言う話になり、そこで安いTシャツ求めて何店舗かのリサイクルショップを巡った。

今までAV機器などを探しにリサイクルショップへ行ったことはあったが、他のコーナーは雑然とし過ぎており、あるかもわからない自分が求めている物をあの膨大な数の中から見つけるのは多大な労力と時間が必要となるのでスルーしていた。しかしリサイクルショップを隔々まで見てみると色々ある、というか何でもある。

衣料コーナーで言うと、基本的に一般家庭が商品の在庫源となっているので、所謂「普通の服」が多くを占める。

どこかへ旅行した際、テンションの高さに勢い余って買ってしまったその土地や施設のTシャツ、もしくはお土産で貰ったけどこっちはテンションは平常なので着れるはずもないソレ。ノベルティで貰った物。商品の応募で3等か4等だったアレ。明らかにアレのパクリだろっていう物。一般人がアイロンプリントで作った物。ヒロコロシノ、ミスター・ジュンコ、ミチコロンドンなどなど、何でもあるのだ。

そして中でも気の抜けたダサイ物が僕にとっては掘り出し物だ。Tシャツを探しに行った時に自分が欲しいものを探していたらそのような発見はなかっただろう。パーティーロゴに合いそうな物という曖昧な目的しかなかったため、フラットな目線で全てのTシャツを見ることができた。

そしてそういった目線でその他のコーナーも見てみると実に面白い。大理石風のテーブル、サンドバッグ、プロ野球選手の下敷き、子供の頃友達の家でよく見た西洋風の人形、綺麗な石で作られた角。それらは元々正規の値段で買った人がいる。時代背景やトレンドもあるだろうが、今の僕には想像もつかない心理、センス。勿論良い悪いではなく、今までの人生で通って来なかった世界がそこにはある。それとは別に僕が色々な物事に興味を持ち影響されていた90年代の物も多く見られ、懐かしさと共に興味興奮してしまう。

リサイクルショップには見たことないものとあの時見ていたものが混在し、新発見と懐かしさが怒涛のごとく押し寄せる感覚に中毒に陥ってしまった。

初めはTシャツのリメイクという形で開始した、パーティーロゴを既製品にプリントする取り組みだったが、今ではTシャツ以外の服、レコード、レーザーディスク、熊の木彫りなど分野を広げていっている。それらはInstagramにアップしているので、アカウントをお持ちの方は「#rambleリサイクル」では是非検索していただきたい。

レコ屋mole musicの3周年パーティ “tawaki”

みなさま、あけましておめでとうございます。良い年末年始を過ごすことができましたでしょうか？ ありがたいことに僕は昨年末、mole musicの3周年パーティでレコードを回す機会をいただきましたので、そのときの話を少しばかり。

collectiveに遊びに来られる方であれば、mole musicのことをご存知の方も少なくないと思いますが、あらためて紹介させていただきます。mole musicはDJとしても活躍しているmitsuki氏が運営するレコード店です。もともと心斎橋のレコ屋newtoneの店員だったmitsuki氏は3年前に独立し、裏難波のシンボル「味園ビル」にmole musicを開店。ハウスミュージックのラインナップは関西でも随一で、夜な夜なDJたちが集う隠れ家のような空間でした。

昨秋にはアングラ感の漂う裏難波から、昨今住宅エリアとしても注目されている上町(谷町6丁目と玉造の間)に移転。店舗の空間がぐっと広がったことでラインナップもさらに充実しました(隣のうどん屋もなかなかガブです)。

さて、12月28日におこなわれたmole musicの3周年パーティでは、mitsuki氏の他、彼と親交の深いhankyo、yusuke、arata (mad fusion)、take、そして僕がレコードをスピニングすることに。ただレコードを回すだけでは周年パーティらしくないということで、みんなで鍋をつくことにしました。

というわけで昼間頃から僕とhankyoが空堀商店街のスーパーで買い出しをすることに。食料品の買い物に不慣れな男2人があだこうだと言いながら無駄に多くの鍋の具材を選んだことは存外に楽しいものでした。

流行の3歩先をいくmole musicの周年パーティともなれば、それなりに女子率も高いかと思っておりましたが、結局、90%以上が男子、というかオッサン。がつつ鍋をつついて、がんに酒を飲んで、さらにはホールのケーキでお祝いして・・・(笑)。平均年齢30歳をとくに越えたオッサンたちの連帯を確かめ合ったホモ・ソーシャルな夜でした。

もちろん、DJ陣の選曲も抜群で3周年のお祝いに相応しいものでした。mole musicに鎮座するUreiのミキサー(ウン10万もするビンテージ物)の魔法によって、心地よいダンスミュージックが数時間に渡りシームレスに続く快楽。最高の年末となりました。

mole musicは客の嗜好をきちんと理解しながら良い音源を紹介してくれる屈指のレコ屋ですので未体験者は是非、店舗に行くのがベストですが、web shopも充実しているので、遠方の方もチェックしてみてください。

mole music
大阪府大阪市中央区上町1-25-22 上二ハイツ1F東側
<http://mole-music.com>

